

課題分析標準項目

基本情報に関する項目

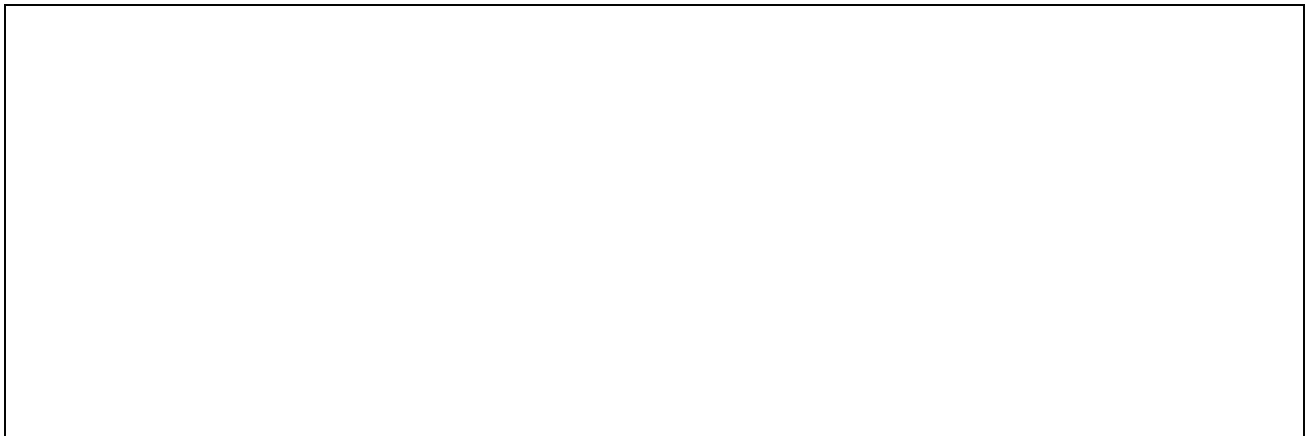
No	標準項目名	基本情報
1	受付年月	令和 7 年 4 月 15 日
	受付対応者	〇〇
	受付方法	回復期リハビリテーション病院医療相談室の医療ソーシャルワーカーのより電話で相談
	氏名・性別・年齢・住所・電話番号	長崎京介 男性 78 歳 C 県△△市△△町 123-4567-8901
	家族状況	妻（68 歳）と二人暮らし 子供は一人（長女）で県外在住。
2	これまでの生活と現在の状況	妻との二人暮らし。妻は平日近所にあるスーパーでパート勤務している。妻の仕事以外是一緒に買い物や散歩を楽しんでいた。趣味はガーデニングで、自宅の庭で花や野菜を育てていた。自治会活動にも夫婦ともに積極的に参加し、近所に昔からの知り合いも多い。年 2 回、長女夫婦が子供を連れて帰省することを楽しみにしていた。ADLは自立しており、妻がいない日中は洗濯や掃除、食事の用意などもしていた。入院後は術後の左股関節痛のため歩行能力が低下している。病院内での身辺動作は自立しているが、外出機会もなく IADL 全般は行っていない。
3	利用者の社会保障制度の利用情報	介護保険：要介護Ⅰ 医療保険：後期高齢者医療保険 生活保護：なし 身体障害者手帳：なし
4	現在利用している支援や社会資源の状況	回復期リハビリテーション病院に入院中。リハビリテーション科医師、看護師、理学療法士、作業療法士から治療やリハビリを受けている。
5	日常生活自立度（障害）	A2
6	日常生活自立度（認知症）	I
7	主訴・意向	本人：「妻と自宅で一緒に暮らしたい」「前みたいに歩けるようになりたいが、痛みがあり転ぶのが怖いので今は歩きたくない」「ガーデニングを再開したい」 家族(妻)：「平日の日中は仕事で不在が多い。主にレジ打ちの仕事をしており、夕方までには家に帰ることができる。」「入院前夫は自分で身の回りのこともできており、家事も担ってくれていた。今までは夫の面倒を見る必要がなかったが退院後は仕事も続けなければならず不安はある。」
8	認定情報	要介護Ⅰ(令和 7 年 3 月 1 日～令和 7 年 8 月 31 日)
9	今回のアセスメントの理由	初回(在宅復帰に向けて)

アセスメントに関する項目

No	標準項目名	基本情報
10	健康状態	左大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術後。身長:168cm 体重:65kg BMI:23.0 回復期リハビリテーション病院に入院中。歩行器使用にて病棟内移動自立。T字杖での歩行練習中（見守り）。歩行時や足の曲げ伸ばして左股関節痛あり。病みの強さは10段階評価で5～6程度。消炎鎮痛剤を服用中。病識はあり、今のままでは自宅での生活が難しいと考えている。
11	ADL	寝返り・起き上がり・移乗は自立。短距離(4～5m)歩行は病室、病棟内の手摺を使って、それ以上は歩行器歩行自立。T字杖での移動も自立レベルではあるが、疼痛と転倒恐怖の強さがあり屋外歩行練習も含め積極的には行えていない（理学療法士より聴取）。着衣は上半身自立、下半身に一部介助が必要(左股関節の屈曲制限+)。入浴は浴槽への出入りに看護師の見守りが必要。洗体は自立。排尿・排便は失禁なく自立。
12	IADL	洗濯は面会に来ている妻に預け行ってもらっている。必要最低限の金銭は自己管理できており、病院内の売店での買い物は行えている。服薬管理は定時に看護師より提供されている。他は外出することなく現時点では行っていない。
13	認知機能や判断能力	MMSE 25点。軽度認知障害(MCI)が疑われる。人の名前が思い出せないといったことがあり、同じ話しをすることもある。入院前から年相応の忘れはあったが、入院中に若干悪化した様子。
14	コミュニケーションにおける理解と表出の状況	意思の伝達は問題なし。聴力低下(軽度難聴)。リハビリがない時間は同室の他患者と談笑し人当たりも良い。
15	生活リズム	6時起床、下肢痛で熟睡できないため、午前中はテレビを観て過ごすことが多い。午前午後とそれぞれ1時間リハビリ、22時就寝。下肢の痛みもあり睡眠不足。
16	排泄の状況	尿便意正常。失敗はない。しゃがみ動作時に左股関節痛あり、動作に時間がかかる。
17	清潔の保持に関する状況	入浴と下衣の更衣は看護師の見守り、介助が必要。衣類は脱ぎ着しやすい伸縮性の高い素材の物を着ている。洗顔・整髪は自立。
18	口腔内の状況	歯や歯茎に異常はなし。親知らずは4本とも抜歯済み。義歯もなく、3食後の歯磨きも自分でやっている。
19	食事摂取の状況	食事は自力で摂取可能。好き嫌いはないが毎日の晩酌が習慣化していたため食は細い。食事回数は1日3回。1,825 kcal。間食はないが、妻や同室の他患者からもらうお菓子を食べる程度。水分量は1日1.5L程度。嚥下障害やアレルギーなどの問題はない。
20	社会との関わり	入院中は同部屋の他患者と積極的に話しをしている。特に隣のベッドの人と仲がいい。入院前は、近所のガーデニング仲間とお互いの育てている植物、野菜を鑑賞、情報交換する機会が定期的にあった。定期的に通っていたホームセンターにも馴染みの店員がいる。
21	家族等の状況	介護者は妻。長女は県外におり、定期的な訪問は困難。妻は同居しているが、

		平日は仕事で不在。仕事内容はスーパーのレジ打ち。パート勤務。介護への抵抗はないが、仕事との両立ができるかは不安に思っている。
22	居住環境	・市街地に建つ 2 階建ての家屋で近所とも隣接し、すぐ側に市道が通り小学生の通学路になっている。 ・持ち家（木造 2 階建て）。築 35 年の段差が多い日本家屋。1 階に和室、リビング、ダイニングキッチン、浴室（浴槽の深さ 70cm）、トイレ（洋式）があり、2 階に和室と洋室が 1 部屋ずつ。手摺は 2 階への階段のみ設置されている。 ・入院前は 2 階に寝室があった。30㎡の庭があり、ガーデニング、自家菜園を行っていた。
23	その他留意すべき事項・状況	特別な状況はなし。

※住宅の見取り図（必要に応じて）



長崎県介護支援専門員協会（転用禁止）